

1: 【The Black Note】第11話 閉ざされた心のページ
2:
3: ■オープニング
4:
5: セレスモノログ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の
6: 精霊核の伝説の裏に隠された歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表
7: に晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの
8: 真相。でも、それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実——」
9:
10: ■タイトルコール
11: デュレ「The Black Note 第11話 閉ざされた心のページ」
12:
13: ■本編。
14: □夜、皆が寝静まったころ。
15: SE：ベッドが軋む
16:
17: 迷夢「うん……。……」
18: シリア「——眠れないのか」
19: 迷夢「シリアくんか。あはは。くすぐったいよ。はは……。は、はくしょん」
20: シリア「こらっ、くしゃみをかけるなっ」
21: 迷夢「……そう言うシリアくんもその昔、ど派手にやってくれたじゃない。忘れちゃった？」
22: シリア「そ、そんなこともあったか？」
23: 迷夢「ねえ、シリアくん。——今晚だけでいいから、あたしの抱き枕でいてよ。ホントはずっと淋
24: しかった。昼間に来たとき、ホントは……相手にされなかったらどうしようって不安に押し
25: 潰されそうだったんだよ」
26: シリア「……昔の迷夢はもっと自信家だった。あんな根拠のない自信がどこから湧いてくるのか不
27: 思議で堪らなかったよ」
28: 迷夢「はったりだよ。そうしなきゃ、あたしは何もできないんだもの……」
29: シリア「そうか……。……お休みよ、迷夢。——よろしく頼む……。今回じゃ、終わらない。そ
30: れはもう判ってるんだ。全てを知って時を渡り歩けたのはお前だけだった。だから、……力
31: になってくれよ」
32:
33:
34: □これが最後の過去語り、シリアの思い出。または迷夢の夢。
35: ・場所はマリスの洞窟。
36:
37: 迷夢「必ず、サスケを助けるって約束したんだから。待ってて、シリアくん」
38: シリア「迷夢。もう、いいよ。もう責めたりしないから。だから……。——迷夢まで居なくな
39: ちゃったら、オレ、どうしたらいいんだよっ！」
40: 迷夢「ありがと、そう言ってくれるだけで嬉しいよ。——。あ～。それからこれ、返すよ。ゼフィ
41: から預かったんだ。キミに渡しておいてくれて」
42: シリア「ゼフィのアミュレット……」
43: 迷夢「うん……。ずっと返し損なってたんだ。ごめんね……」
44:
45: SE：なでなで
46:

47: 迷夢「……さてと。サスケは返してもらおうよ」
48:
49: SE：虚空から剣を出す音
50:
51: 迷夢「氷雪の女神・クリスタロスの氷の接吻、祝福をその身に受けたサスケの氷塊よ、闇の神・シ
52: ルトの名において、その戒めを解き水滴へと姿を変えよ……。サスケを……サスケをあたし
53: の元に……ううん、シリアくんの元に返して……」
54:
55: SE：氷の溶ける音。どさっ！
56:
57: シリア「迷夢……」
58: 迷夢「これで……いい、はずんだけど……な……」
59: サスケ「——全く、世話を焼かせる連中だな。お前らは……」
60: 迷夢「ふああ。サスケ、良かったよ、サスケえ」
61: シリア「父上っ」
62: サスケ「はっくしょいっ！ しかし、寒いな、ここ。……ここはどこだ？」
63: 迷夢「アルケミスタの山奥の洞窟よ」
64: シリア「父上っ。本当に父上なんだ」
65:
66: SE：人の近づく音
67:
68: レイヴン「お前ら、俺のお姫さまに何をしてるんだ？」
69: 迷夢・シリア「レイヴン？」
70: レイヴン「迷夢……。しばらく姿を見ないと思えば、こういうことだったのか。あの後、ずっと姿
71: を眩ませて魔術の鍛錬をしていたという訳か……」
72: 迷夢「そのとおり」
73: レイヴン「しかし、サスケを助けるってことは……」
74: 迷夢「そんなこと、言われなくてもわかってる。サスケを救えば、その氷塊を維持する魔力の供給
75: 源がなくなるってこと、そして、やがて封印が解けることも……」
76: レイヴン「ふん、そうまでして、サスケを助け出そうとはどういうことなのか？」
77: 迷夢「……久須那とレルシアとの約束」
78: レイヴン「約束……か……。お前たちはそろいもそろっておめでたいな。——そんな奴らは全員ここ
79: で消えていけ」
80: サスケ「やれやれ、再会を祝っている暇は何もないんだな」
81: シリア「レイヴン！」
82: レイヴン「シリアっ、お前に用事はない、どこへでも好きなところへ消えてしまえっ！」
83:
84: SE：けり！
85:
86: シリア「ぎゃんっ！」
87: 迷夢「シ、シリアくんっ。あ、くっ」
88: レイヴン「動くなっ。お前は……俺が殺す」
89: シリア「うわああああ。ちくしょうっ」
90: 迷夢「ダメっ！ シリアくん」
91:
92: SE：シリアくん、やけくそアタック。

09.04.29
TBN11.rtf

93: SE：何かが切れる音
94:
95: 迷夢「ああああああっ。つ、翼が……」
96: シリア「メイムー！」
97: 迷夢「はあっ！ あ——っ。うぐあっ。……はあ、レイヴン。キミは何故……」
98: サスケ「レイヴン！ 貴様」
99:
100: SE：サスケ、レイヴンに飛びつく。
101:
102: レイヴン「……サスケめ、ふざけた真似をしてくれる。……俺はお前らを決して許さんっ！」
103: 迷夢「し、レイヴン……。キミは誰の死も、仲間割れも望んでいなかったじゃない」
104: レイヴン「……マリスを封じられこの期に及んでまで大人しく見てられるか……？」
105: 迷夢「そうは……思わないけれど……。それでも、あたしたちは……！」
106: サスケ「最後まで手間かけさせやがって。……だが、オレはそんな迷夢が大好きだ」
107: 迷夢「サ、サスケ……。そんなこと、言ってる場合じゃないよ」
108: サスケ「今じゃなきゃ、言えないだろ」
109: 迷夢「うあああ。そ、それは愛の告白なのかしら？」
110: サスケ「何言ってるんだ？ お前。ま、それだけ元気なら当分死なないな。さて、迷夢。オレの魔
111: 力を分けてやる。翼の復活には手間取るかもしれないが、死なずに済むぞ」
112: 迷夢「でも、折角、無傷で戻って来れたのに」
113: サスケ「ふ？ そうでもないさ。助けてもらったお前にこんなことは言うべきじゃないだろう。
114: が、生き長らえてもたかが知れてる。今更、言うまでもないだろ？ ——オレはゼフィとシ
115: リアをよこしたあの日に今日までの予兆を見ていたのさ」
116: 迷夢「……そんなぁ……」
117: サスケ「それについてと言っちゃあ何だが、シリアのお守りも頼みたくてな。……ホンの時々で
118: いんだ。あいつが元気でやってるか、こっそりとも影からでも見守ってて欲しい。そして、
119: 今日、今この瞬間にお前のウロボロスは本物になる。ま、せいぜい、一度が限度だろうけど
120: な」
121: レイヴン「サスケえっ！ 何故、貴様は俺たちの邪魔をする」
122: サスケ「最大多数の最大幸福をオレは望む。この世に住まう全てのものに幸福が訪れるとは思わん。
123: だが、マリスへの思いが強すぎるが故に全体が見えぬお前、周囲を災厄に巻き込んでいくお
124: 前たちを認めるわけにはいかない」
125: レイヴン「へっ。所詮はサスケも偽善者だってことだ」
126: サスケ「……否定はしないな」
127: レイヴン「否定できないの間違いだろう？」
128: サスケ「……どちらでも同じことだ。さあ、迷夢。ウロボロスの腕輪を差し出せ。お前の残りの生
129: はオレが預かる。……お前がこの世を去る時までオレが一緒だ。恐れることは何もないっ！」
130: シリア「父上——！」
131: サスケ「お前と会えて、結構楽しかったぜ、迷夢……」
132:
133: //場面転換
134: □夢から覚めて……。
135:
136: 迷夢「ううう……」
137: シリア「どうした迷夢。悪い夢……怖い夢でも見たのか？」
138: 迷夢「うん……？ 何でもないよ」

09.04.29
TBN11.rtf

139: シリア「オレとお前の仲だろ、隠し事はするな」
140: 迷夢「……ちよっぴり、昔を思い出したただけだよ……。——誰も起きていないよね……」
141: シリア「ああ、よく眠ってる。顔を踏ん付けても起きないぞ」
142:
143: SE：背中をナアナア。
144:
145: シリア「……調子に乗って毛をむしるなよ」
146: 迷夢「うん、判ってるよ。……レイヴン。……あいつ、油絵、まだ、続けてるのかな？」
147: シリア「……さあな」
148: 迷夢「もう一度、レイヴンの描くあの世界をもう一度みたい。こんなことになったって、ずっと忘
149: れられないんだ。キミとゼフィと久須那とマリスとレイヴン。六人でここに集まった時のこ
150: と。もう、どんなに頑張っても取り戻せないんだよね……」
151: シリア「ああ。——だが、お前が望めば、新しい仲間たちが手に入る。みんな、もう判っているぞ。
152: 迷夢は間違っていないかった。正しかったとね」
153: 迷夢「でも、もっと他にやりようがあったかもしれない。誰にも迷惑をかけないスマートな方法が」
154: シリア「ま、お前にゃあ無理な相談だろうな」
155: 迷夢「人がふさぎ込んでるのに言いたい放題を言ってくれるね。キミも」
156: シリア「迷夢相手にしんみりしてもしょうがないだろ。本人が一番テキトーでふざけてるんだから。
157: なあ、お前ら、そうだよな？ ……寝ているふりをしているのはもうばれてるんだぞ」
158:
159: SE：ごそごそ
160:
161: セレス「ふう～ん。迷夢ってば、思ってたより、仲間思いなんだね」
162: デュレ「滅法明るい迷夢の裏側には意外な一面があったんですね」
163: セレス「けど、レイヴンってばもう少しは紳士に思っていたのにそうでもなかったんだ」
164: 迷夢「って、みんな、ホントに起きてたの？ うあああ。寝てると思ってたから喋ったのにい」
165: セレス「別に気にしなくてもいいんじゃないの？ だって、あたしたちは……リボンちゃんの言葉
166: を借りるなら“新しい仲間たち”なんでしょ？」
167: 迷夢「……あたしのこと、そう思ってくれるの？」
168: セレス「う～まあ、迷夢は敵に回したくないし、み～んな、散り散りになっちゃったし」
169: 迷夢「ちえっ、何だあ、そんな消極的な理由か……。つまんない」
170: デュレ「全く、セレスと言いまあたといい、どうしてこんな難儀な性格なのばかり、わたしのそば
171: に集まってくるのかしら。仲間とか仲間じゃないとか、敵だとか味方だとかそんな区分をす
172: るのはわたしは嫌いなんですけど。そんな消極的な理由であなたをそばに置いておけるわけ
173: がないでしょ」
174: 迷夢「……つまり？」
175: デュレ「あ～もうっ！ 迷夢は仲間です、仲間。それは大筋で目的が一緒だからです。人手不足だ
176: からとか、そんな訳の判らない理由じゃありません」
177:
178: SE：時計塔の鐘の音、五点钟。
179:
180: デュレ「あ……、五点钟……」（不安そうに）
181: セレス「リボンちゃん。エルフ狩りの魔法、避けられるんだよね。絶対に大丈夫なんだよね？」
182: シリア「ああ、問題はない。が——、思い切り握るのはよしてくれ。痛いんだぞ。ホントに」
183: セレス「だって、リボンちゃんの尻尾を握ると安心できるの……」
184: シリア「……このお子ちゃまめっ」

185: セレス「ひどい〜。けど、昔のリボンちゃん程じゃないモン……」
186: シリア「それこそ、ひどい〜〜だろ？ お前」
187:
188: SE：ドアをどんとどんと激しくノック。
189:
190: セレス「だあれ？ こんなに朝早く。近所迷惑だっつ〜の」
191: 男「エルフを匿っているとの通報を受けた。家宅捜索をさせてもらう」
192: シリア「待て、お前は行くな。悪意を感じる……。迷夢。頼んだ」
193: 迷夢「ほお〜♪ あたしを選んじやっていいのですか、シリアくん。寝起きのあたしはご機嫌が
194: ちょ〜悪いのだ。血の雨が降ろうと、何があるうと、あたしは責任なんて持てないからね」
195: シリア「ご機嫌が悪くても十分だ。行ってこい」
196: 迷夢「あっそお。それでいいなら、いいけど」
197:
198: SE：迷夢の足音。
199:
200: シリア「しかし、まずいな……。レイアが警備隊にでも垂れ込んだか……。おい、ここから逃げる
201: ぞ。さしあたって、……そうだな、サムの家へ……」
202: セレス「え〜。どうして、また、そんな危険地帯にい」
203: デュレ「闇の精霊核のある場所だから、でしょう。きつと？」
204: セレス「あー、そうだっけ」
205:
206:
207: //場面転換
208: □サムの家で。
209: SE：そろそろと足音。ドアを開こうとして、
210:
211: マリス「……随分、遅かったじゃないか」
212: セレス「まって、誰か、いる」
213: マリス「もう、来ないんじゃないかと思っていた……。——あの時のちびも大きくなった」
214: シリア「ちびだって育つんだぜ？ マリス……千年もあれば十分育つ」
215: マリス「そうだな……。迷夢はどうしてる？」
216: シリア「迷夢か……あいつも昔と変わっちゃいない」
217: マリス「……何も変わってはいないか……。ならば、やめる理由もないわけだ」
218: シリア「そして、お前がやめない以上、オレたちにもやめる理由が見あたらないのさ」
219: マリス「再び……か」
220: シリア「いいや。三度（みたび）さ」
221: マリス「三度か？ なるほど……。……お前にとっては三度目、わたしには二度目か……。時とし
222: て面白いことを教えてくれるよ、お前は」
223: シリア「ああ」
224:
225: SE：迷夢の足音。
226:
227: 迷夢「——マリス。キミ、こんなところで何をしてるの？」
228: マリス「陣中見舞いか、敵中視察か、そう言ったところだ」
229: 迷夢「……反対側が微かに透けてるね……。シャドウか……」
230: マリス「よく気が付いたな。——しかし、エルフ二匹と老婆一人とは大したことはない。この面子を

231: 撃滅し、わたしの望みを成就することなど容易いことだ」
232: シリア「が、今更、お前の望みなど意味をなさないだろ？」
233: マリス「そうでもないさ。無くしたものをきっちり取り戻させてもらう」
234: シリア「反協会組織・トリリアンを使ってか？」
235: マリス「ふふふっ。あんな弱虫だったおちびちゃんがこんな直接的に尋ねてくるなんて考えてもい
236: なかったよ。いいだろう。一つだけ教えてやる」
237: シリア「それはどうもすまないね」
238: マリス「そう拗ねるな。トリリアンはわたしたちのもとにある。かつての栄光を取り戻すためによ
239: く働いてくれるぞ？」
240: シリア「なるほど……。それだけでも十分すぎるほどありがたいね。これであらゆることがつな
241: がるような気がする。ま、判ったからと言って今更、何も変わらないんだらうけどな……」
242: マリス「そう言うことだ。では、近いうちにな……」
243:
244: SE：マリスが消える音。
245:
246: デュレ「はー（ほっとして）マリスがサムの家を知ってるなんてどうということですか？」
247: シリア「どうということかと聞かれても、オレには答えようがない」
248:
249: SE：デュレ、紙をポケットから取り出す音。
250:
251: デュレ「そうですね……。でも、アルタさんが残した“五月二十四日に地下墓地大回廊で待つ”と書
252: かれた紙の意味なら知っていますよね？」
253: シリア「……知らない」（伏し目がちに
254: デュレ「知りませんか……。それならば、それでも構いません。リボンちゃん、迷夢、シエラさん。
255: ……そして、セレス。聞いてください」
256: セレス「……はん、あたしが最後かい」
257: デュレ「順番なんかどうだっていいでしょ。……いえ、今は言い争いをしてる場合じゃありません
258: でした。セレスもいいですね？ 生きて帰れたらいつだって口げんかなんて出来るんだから、
259: 今は我慢しなさい」
260: セレス「……へ〜いい……」
261: デュレ「——困ったちゃん。——わたしは久須那の封印を解きたいと思います——」
262: セレス「この間は今、解いちゃったら、あたしたちの居場所がなくなっちゃうって怒ったくせに」
263: デュレ「セレスは黙って！」
264: セレス「へ〜い」
265: シリア「デュレ、今、何て言った？」
266: デュレ「久須那の封印を今、この時代に解いてしまいたい。と言いました」
267: シリア「う、く、しかし——」
268: デュレ「判っています。そんなこと。でも、例え失敗してもやらなくちゃならないと思うんです」
269: シリア「——失敗するとどんなことになるのか、お前は判っていない……」
270: デュレ「いいえ、判っているつもりです」
271: シリア「練習のために呪文を詠唱することさえ許されない禁呪なんだぞ。呪文を暗記し、ぶっつけ
272: 本番、しくじったら命はない。それだけ危険な代物なのに」
273: デュレ「……それでも今だと思います。成功しても失敗しても今、やらなければいけないような気
274: がします。わたしたちの行動がそのまま未来につながっているのなら、ちゃんと目的の場所
275: に辿り着くはずですよ」
276: シリア「そうかもしれないが……。辿り着けない可能性だってあるんだぜ……」

277: セレス「か、帰れないのは……いやなんだけど……？」
278: デュレ「セレスは静かにしなさい」
279: セレス「へ〜い」
280: デュレ「リボンちゃん、わたしは久須那の封印を解くために大聖堂の地下室に行きます。セレスは
281: ……来てくれますよね？ 来てくれないとお話にならないですけど……」
282: セレス「もちろん、行くけどさ。——行かないって言うても有無を言わさずなんでしょ？」
283: デュレ「よく……判ってますね？」
284: セレス「そりゃね。デュレとの付き合いも足かけ三年、もうすぐ丸三年になるしね」
285: シェラ「デュレ、……運命はあなたの手のひらの上にあります。望めばそれを手にすることが出来、
286: ……握る時機を間違えれば手のひらから零れ落ちる——」
287: シリア「しかし、ひとたび握れば運命がデュレを離さない。……久須那の封印に手を出すと言うこ
288: とは終わりが始まると言うことだ」
289: デュレ「ええ、判っています」
290: シリア「……オレにはそれが予定調和なのか、出来上がった歴史を真っ向から否定するものかは判
291: らない。ただ……厄介ごとを抱え込むことになるぞ……」
292: 迷夢「そんなのはクロニアスか、千里を見透かす千里眼くらいしか知らないんじゃない？ これか
293: ら巻き起こることが運命だというなら、切っ掛けだけを作ればあとは勝手に流れていく。水
294: が低いところに流れていくようにね」
295: シェラ（千里眼……万里眼が迷夢を見ている……ね）
296: 迷夢「あら？ シェラ、そんなに見つめて、あたしの顔に何かついている？」
297: シェラ「いいえ。何でもありませんよ」
298: デュレ「けど、どうしたらいいんでしょう……。久須那を解放し、対マリスに備えるだけではき
299: と、足りません。いつ、マリスが仕掛けてくるか判らないし……。それに天使の住む世界と
300: の境界を守らなくてはならない。そして、シメオンはなくなる……」
301: シリア「何でもかんでも一人で背負い込もうとするな。オレたちがいる。とりあえず、お前はど
302: うしたい」
303: デュレ「わたしは……成否は判りませんが、久須那を封印から解き放ちたい……」
304: シリア「ならば、それが一番だ。次に天使の住む世界とこの世界との境界面増強策だ……。その
305: 前に、何だっけ？ 光に住まう闇のなんちゃらに訊いておけよ、迷夢。境界の崩壊がどこま
306: で進んでるのか、正確に知る必要がある。優先順位を変更せざるを得ない状況に陥った時、
307: 知らないといけない大変なことになる」
308: 迷夢「うん、判った。ちゃんと訊いておくから安心して」
309: シリア「じゃ、やることは決まったんじゃないのかな？」
310: デュレ「そうですね。では、チームを作ります……。全員で乗り込むわけにはいかないですし……、
311: それにシェラさんが」
312: 迷夢「シェラはあたしに任せてよ。アイネスタまで連れて行くわ。あの町なら、誰も注目していな
313: いし、暖かな田舎町だから……」
314: シリア「——旧エスメラルダ王都か、見捨てられた町。……大丈夫なのか？」
315: 迷夢「大丈夫よ。あたしの知り合いがいるから……何、そこ、リボンちゃん♪ あたしにだって美
316: しい友情に彩られた交友関係だってあるのよ。そこにしばらく身を寄せたらいいと思って。
317: 大丈夫、信用できるって」
318: シリア「本当か？」
319: 迷夢「本当だって。向こうもばあさんだから、気が合うんじゃないかなあって……、あら？ あら
320: らっ？ ごめん、他意はないの、あは♪」
321: セレス「迷夢に知り合いがいるの？ そこまで掘み所がなくて自己中心的なキミに友達がいるの？」
322: 迷夢「いちゃ、ダメだって言うの。エルフの子猫ちゃん、その二」

323: セレス「いても構わないんだけど、なぁ〜んか釈然としないものが……ね？」
324: デュレ「——シェラさんは迷夢の提案で問題ありませんか？」
325: シェラ「そうですね……。わたしに出来ることはもう何もありませんし、いても足手まといになる
326: ばかりでしょうしね。お言葉に甘えて、迷夢のお知り合いにお世話になりましょうか？」
327: 迷夢「じゃ、決まりね。あたしはシェラをアイネスタに送り届けたら、自分の魔法の支度を始める
328: ね。けど、ま、それはいいや。他のこと、さっさと決めて。行動しましょ。相手にこっちの
329: 動きを悟らせないためには、可能な限り迅速な行動が要求されるのよ。マリスの思惑の先へ、
330: 先へといっただる」
331: シリア「そうしたら、楽勝だっ！ と、お前は言いたいんだろうけどな」
332: 迷夢「そうよ。そうに決まってるじゃない。ど〜せ、予測し得ない最悪の事態になるに決まってる
333: じゃん。だったら、せめて今くらいは勝った気でいたいでしょ？」
334: セレス「そいで、あたしとデュレと、リボンちゃんはどうするわけ？」
335: デュレ「三人一緒に大聖堂の地下へ向かいます」
336: シリア「妥当な線だな。万一、職務質問されたらオレが嘘みついてやるよ」
337: デュレ「では、行きますよ。——途中、見とがめられないことを祈ってください」
338: 迷夢「そんなの気にしてたって意味ないって。どんなに注意したって見付かる時は見付かるし、ど
339: んなにずばらに歩いていても見付からない時は見付からないものなのよ」
340: デュレ「で、でも、どんなときでも、細心の注意を払っておかないと……」
341: 迷夢「後悔はしない♪ 三百年生きてりゃ判るって」
342: シリア「それが迷夢の人生訓ってワケか？」
343: 迷夢「うん、そう。さっきも言ったでしょ。無駄な努力はしないのよ、あたし。必要最小限度で最
344: 大の効果を求めるのよ。判る？」
345: SE：迷夢とんでく
346: SE：迷夢とんでく
347: SE：迷夢とんでく
348: セレス「……大丈夫なの？ あれ？」
349: シリア「大丈夫だろ、多分。……何度も死にそうな目に遭ってるからな、迷夢も。その中からあい
350: つはあいつなりに得るものがあつたんだろうさ。……あいつは信頼できる。——そのはずだ。
351: ほら、いつまでもぼーっと突っ立ってないで、行くぞ。マリスを出し抜くんだらう？」
352: セレス「デュレ、ぼーっとしてないで行くよ」
353: デュレ「ぼーっとしてたのはあなたでしょ、セレス」
354: SE：迷夢とんでく
355: SE：迷夢とんでく
356: □エルフの森で、パッシュとジーゼとシリア。
357: SE：足音。
358: SE：迷夢とんでく
359: ジーゼ「あなたが来るのを待っていました」
360: パッシュ「あたしが来るのを待っていた？」
361: シリア「ええ……。奥へ、シリアくんが待っています」
362: SE：迷夢とんでく
363: SE：足音
364: SE：迷夢とんでく
365: パッシュ「……あなたがジーゼ？ 森の精霊……ドライアード」
366: ジーゼ「そうです。さあ——」
367: パッシュ「あ……？ ああ」
368: ジーゼ「……シリアくん。パッシュが来ましたよ」

369: バッシュ「シリア……」
370: シリア「どうしたんだ、バッシュ。泣くなんて、らしくない……」
371: バッシュ「シリア……。レイアにやられたと言うのは本当なのか？」
372: シリア「——残念ながら、本当さ。あいつは最初から、そのつもりだったんだ。裏切っていた。一
373: 族を消し、シェイラルの一族の伝えてきた物を全て自分の手にするために……」
374: バッシュ「判った……。レイアはあたしが始末する」
375: シリア「——レイアを紹介したのはお前だったな。責任を感じるの判る。……だが、やめておけ。
376: レイアにはマリスやレイヴンがついている。——返り討ちにされるのが関の山だ。……セレス
377: スと一緒に居たいんだろ。ずっと、これから……」
378: バッシュ「お前にはそんなことを一言も話した覚えはない」
379: シリア「だが、あいつには話したんだ。知らないわけはない。あいつはオレなんだから」
380: バッシュ「しかし、レイアを始末するのはあたしの役目だ。放置は出来ない」
381: シリア「何故、お前の役目だと思う？」
382: バッシュ「古い馴染みなんだよ。レイアが子供の頃からずっと知ってる。それを気が付けなかった
383: のはあたしの責任だ。……他人には裁かせない。無邪気な笑顔、泣き顔、その草草……。レイ
384: アの全てをあたしは知ってるつもりでいた。けど、思い上がりだったな……」
385: シリア「どうしても、行くのか？」
386: バッシュ「ああ。お前が……。お前たちが何を杞憂してるのかは判る。けどな」
387: シリア「いや、お前は知らない。何も知っていない。知ったつもりになってるだけだ」
388: バッシュ「……お前は隠し事が下手なんだよ……。二百年経っても変わらなかったんだな——。だ
389: から、入れ替わっていても判らなかった。お前は何も変わっちゃいない」
390: シリア「行くな、バッシュ。ゼフィがいなくなって、オレの前からみんながいなくなっていく中で、
391: お前は——。お前はようやく見つけた安らぎなんだ。放したくない。バッシュを放したくない
392: いっ！」
393: バッシュ「あたしもシリアくんが大好きだよ。キミがいたから、色んなことが出来た。久須那との
394: 腕試しも楽しかった。キミと共に過ごした時間、キミと一緒に見た未来の夢。どれもみんな、
395: 大切な思い出なんだ。その果てにそれがあつたら、甘んじて受け入れる他ないだろ？」
396: シリア「そんな必要はない。オレと共に……。アルタが戻るまで、それでもいいから……」
397: バッシュ「聞いてるんだろ。……自分から。知ってるんだろ、どうにも出来ないことをっ！ お前
398: の見た予兆の中にあるんだろ？ だったら、黙って見送れ！ それ以上、何も言うな」
399: シリア「どうして。お前なんだ。何故、オレじゃない。どうして、このオレじゃないっ！」
400: ジーゼ「シリアくん、興奮したら傷に障りますよ」
401: シリア「オレはお前を失いたくない。ゼフィの二の舞はイヤだ。指をくわえて眺めてるだけなんて」
402: バッシュ「——シリアは大丈夫だよ。キミは一人で歩いていける。だって、証明されてるじゃない
403: か。キミは乗り越えて、ここに帰ってくる……。また、その時にあたしたちは会える。だから
404: っ……」
405: ジーゼ「シリアくん、そろそろ身体を休めないと……」
406:
407: SE；シリア、立ち上がろうとする。
408:
409: ジーゼ「いい加減になさいっ。バッシュ、早く行ってください。この子、言い出したらきかないん
410: です」
411: シリア「コラ、ジーゼ。出せ。オレは行くんだ。オレは——」
412: バッシュ「さよなら、シリアくん」
413:
414: SE：バッシュが走り去る。

415:
416:
417: □デュレとセレス、そして、リボン
418: SE：足音。
419: SE：雑踏。
420:
421: デュレ「……わたしたちがしようとしていることは一体、何なのでしょうね……」
422: シリア「……深刻に悩むだけ、無駄だぞ。——答えは……お前たちが帰れたら、きっと、判る」
423: デュレ「そうですね。悩むのはいつでも出来ます。今はまず、目先のことをどうにかしないと」
424: セレス「——だね。でも、ねえ、封印、解けたらどうなるのかな？ ……解けなかったら、どう
425: なっちゃうんだろ？」
426: シリア「判らん。……様々な思惑が交錯しだしたカオスの中では正確に“予兆”を掴めない。色々な
427: ことが曖昧さに埋没してしまって……そう、霞がかかったようになってペールの向こうは読
428: み取れない……」
429: デュレ「……みんな、なくなってしまうんですか？」
430: レイア「三人とも、そこで止まりなさい」
431: デュレ「レイア……さん？ い、今までどこに行っていたんですか？」
432: レイア「もう少しだったのに。もう少しで全てを手中に収めることが出来たのに。お前たちが来な
433: ければ、わたしは全てを思いのままに操ることが出来た……」
434: シリア「……。レイヴンもか？」
435: レイア「そう。レイヴンは久須那に復讐することばかりを考えています。わたしが——」
436: シリア「言わなくていい。——お前だよ、レイア。切っ掛けはオレじゃない。お前だ」
437: レイア「何の切っ掛けがわたしにあるのですか？」
438: シリア「……独り言だ。——デュレ、セレス。お前たちは自分の目的を果たせ」
439: レイア「待ちなさい、まだ用事が済んでいません。止まれっ」
440: シリア「止まるな、行け。ここまで来たら、お前の望みなど明白だ。“久須那の絵”の在処だろ？
441: 解呪と封印破壊の魔法を手に入れた。魔力はレイヴンでもマリスでも分けてもらえばどうに
442: でもなるよなあ？」
443: レイア「……何が言いたいのですか？」
444: シリア「ふん？ 別に。……とうとう見つけれなかったんだな。——オレがお前を選ばなかった
445: ことは屈辱だったか？ だが、今となったらその訳は自明だろ？」
446: レイア「どこまで、わたしをバカにするつもりですか？」
447: シリア「バカにはしていない。むしろ、その狂った情念を褒め称えているのさ」
448: レイア「ふざけなくてください——」
449:
450: SE：複数の魔法を展開！ キン、キン。
451:
452: レイア「……。ファイアボール」
453: シリア「アイスシールドっ」
454:
455: SE：氷柱の出来る音、ファイアボール。
456:
457: デュレ「リボンちゃんっ！」
458: シリア「構うな、行けっ。お前たちは振り返らずに先に行け。ここはオレが何とかする」
459: デュレ「判りました。行きますよ、セレス」
460: セレス「で、でも……」

461: デュレ「仕方がありません。レイアの相手をみんなでしては時間の無駄です。……こっちは人
462: 手不足、向こうは全て万全、拔かりなし。不利なんですよ、わたしたち」
463: セレス「そりゃ、もちろん、判ってるんだけど……、大丈夫だよな。リボンちゃん」
464: デュレ「リボンちゃんなら、きっと、大丈夫？」
465:
466: SE：駆け足
467:
468: レイア「待ちなさい！」
469: シリア「——！ 行かせるかっ！ お前の相手はこのオレだ。それとも……オレが怖いか？」
470: レイア「……何ですって！」
471: パッシュ「待たせたな、シリア」
472:
473: SE：魔法の効果音。
474:
475: シリア「あら？ ……ふっ。まさか、こうなるとは思わなかったな」
476: パッシュ「あたしもだ。覚えてるんだろう？ あの日のこと。尤も、あたしにとっては今さっきの
477: ことだけだな。……お前、必死だったぞ。あたしをここに来させないために」
478: シリア「ふ、二百年以上も昔の話さ。しかし、今更持ち出されると恥ずかしいな」
479: パッシュ「恥ずかしがる柄でもないだろ？」
480: シリア「まあ、そうだな」
481: レイア「——いつまでじゃれ合ってるつもりですか？」
482: シリア「妬くな……。パッシュ、レイアは非常に高度な魔法使いだからな。一筋縄にはいかないぞ」
483: パッシュ「それは判ってる。だから、あたしはレイアをシエラに紹介したんだ。レイアなら必ず
484: ……。でも、見通しが甘かったな。どこで踏み外してしまったんだ？」
485: シリア「——嫉妬。オレがお前と組み、レイアを久須那に挑戦させなかったこと……かな……」
486: パッシュ「あたしのせいなのか……」
487: シリア「それは違う。ただ、レイアが封印を解く役目を担わないことだけはわかっていたのさ」
488: パッシュ「なるほど」
489: レイア「何をごちゃごちゃとやっていのですか」
490: シリア「勇気があるなら、後ろめたい思いがないのなら、何をそこでどどまっている。己の思いに
491: 自信があるのなら、構わずデュレを追えばいい、オレたちを打ちのめせばいい。違うか、レ
492: イア！ オレたちの出方を見た等という言い訳は通用しないぞ」
493: レイア「っ！」
494: シリア「今更、何を言っても仕方がない。取り返しは付かない、むしろ、これからどうするかに力
495: を注ぐべきだ。パッシュは知っているはずだ……」
496: パッシュ「今更、言われるまでもないよ」
497: シリア「まずい……！」
498:
499: SE：複数魔法、同時展開の音。そして、いろんな魔法が発動！
500:
501: シリア「来るぞっ！」
502: レイア「ここで消えてしまえ」
503: シリア「くそっ！ パッシュ。守護結界の二重展開、付き合えっ！」
504: パッシュ「判った。あたしが外をいく、シリアは内をやれ」
505: シリア「オレが先だな。よし、簡単なので行くぞ。——氷雪の王者・シリアの名により、神聖なる
506: 闇の神・シルト。闇の無限の吸収力を用い我らを邪なる精霊使いより隔絶する結界を形成せ

507: よ。——守護結界っ！」
508: パッシュ「深遠なる闇の神・シルト。パッシュの思いを聞き届けよ。ダブルスベル！ 闇の無限の
509: 吸収力を用い我らを邪なる精霊使いより隔絶する結界を形成せよ、守護結界！」
510:
511: SE：シールドに弾け飛ぶ魔法
512:
513: シリア「まずい。シールドブレイクがあるぞ」
514: パッシュ「何？ 流石、見込んだだけのことはある」
515: シリア「何、呑気なことを言ってる」
516: パッシュ「ただ、受け止めることが防御じゃないだろ？ 任せておけ、あたしの魔法の腕はちょっ
517: としたもんなんだぞ。レイアくらのレベルには後れは取らない自信はあるっ！ ミラーフ
518: レーム！」
519: シリア「おま、そんなのまでいけるのか？ セレスはてんでダメなくせにどういことだ？」
520:
521: SE：ミラーフレーム出現
522:
523: パッシュ「セレスか？ セレスは精進が足りないんだ。他に理由はないよ」
524: シリア「やっぱりな……。修行とか、勉強とかそう言ったのが嫌いそうだからな、セレス」
525: パッシュ「あたしも嫌いだ。でも、必要に迫られればフツーは勉強するものだろ、違う？」
526: シリア「セレスには当てはまらないんだろ？ かれこれ、四年、五年の付き合いになるが……そん
527: な様子は一度も見たことがない。修行しろと言っても何もしないしな、あいつは」
528:
529: SE：ミラーフレームに魔法弾かれ。何か色々。
530:
531: レイア「パッシュがこんなに出来るなんて」
532: パッシュ「やがて、こうなることは最初から判っていたんじゃないのか？ あたしがレイアを咎め
533: るんじゃないけども、誰かが必ず追い詰めてくると……」
534: レイア「もう、遅すぎます。戻れないところまで来てしまいました」
535: パッシュ「なら、あたしがここで手を下す他ない。——あたしにそれをやらせる気か？」
536: レイア「自信に満ちてて、始めから勝つつもりでいる。……それがわたしとパッシュの決定的な違
537: いで気に入りました。あなたは人望も厚く、輝く太陽のようだったのに、わたしは
538: ……月ですらありはしない。陽で照らされたただの影。自ら輝くことも、光に照らされるこ
539: とも、闇にもなりきれませんでした。わたしはあなたが羨ましい。わたしの欲しかったもの
540: を全部持ってるパッシュが羨ましい」
541: パッシュ「……いいや。お前は持っていたさ。それと気が付かないだけで」
542: レイア「……時間がありません。そろそろ、レイヴンたちが計画を実行に移す頃……。決着をつけ
543: ましょう」
544: パッシュ「——レイアがそう望むなら」
545: シリア「パッシュ。オレは久須那のところに行く。レイアは……頼んだ」
546: パッシュ「そうだな……。行っておいで……」
547: シリア「……心配するな。お前は負けない、絶対にだ。何があっても負けることだけはない。信じ
548: る」
549: パッシュ「判った。信じる」
550: シリア「レイアは必ず選る」
551:
552: SE：シリア、走り去る。

553:
554: パッシュ「——レイア、覚悟しろ。お前はまだまだ未熟なことを教えてやる」
555: レイア「そんなことはありません。レイヴンとだって、渡り合えます。パッシュには負けません」
556: パッシュ「お前の見てきた世界は狭すぎる。何故、気が付かない。どうして、より広い世界を見よ
557: うとしない。その態度を答えと受け取ってもいいんだな？ ……全く、この強情っ張りが
558: ……」
559:
560: SE：矢をつがえる。
561:
562: レイア「魔法は使わないのですか？」
563: パッシュ「自惚れるな。自分の実力も判らないお前にはこれ一本でも十分すぎる。——ウソだと思
564: うか？ ——答えはすぐに判る」
565: レイア「はったりだ！ パッシュはそうやって、わたしを陥れようとしてるんです」
566: パッシュ「だから、試してみようと言ってるんだ。動くなよ。動くと、痛いかもしれない」
567: レイア「あ……」
568: SE：パッシュ、矢を放つ。
569:
570: レイア「あ……、あ、シ、シールドアップっ！」
571:
572: SE：シールドアップ。シールドと矢が魔力の干渉を起こす音。
573:
574: パッシュ「——けどな、それには決定的な欠点があるのさ……。しかし、魔法に溺れる者にはいい
575: 薬になるだろう……」
576:
577: SE：レイアの左肩を……。
578:
579: レイア「——ひ、左胸を狙う余裕はあったはずなのに……？」
580: パッシュ「喋るな。診療所に連れていく。……後のことはそれからだ。今は何も考えるな」
581:
582: SE：パッシュ、レイアをお姫さま抱っこ。
583:
584: レイア「——その優しさ。ココロが痛いよ……。まだ、わたしが小さかった頃、あなたは手を引い
585: てこの街を歩いてくれた……。あの日がずっと続けば良かったのに……。覚えてる。あなた
586: の手の温もり。一度だって、忘れたことはない」
587:
588: SE：パッシュ、歩く。
589:
590: パッシュ「レイアはいい娘だ。まだ、やり直せる。お前の面倒はあたしからシリアに頼んでおくよ」
591: レイア「パッシュ？」
592: パッシュ「——大丈夫。シリアは始めからレイアを赦すつもりだったさ。そうでなければ、お前は
593: ここにはいない。知らないだろ？ シリアの本当の力を。ああ見えても精霊王なんだぞ。魔
594: 力はあたしよりもずっと上だ。けど、その力をひけらかしたり、無闇に行使しない。そして、
595: 寛大だ……」
596: レイア「あ……」
597: パッシュ「狭量な奴に大きな力は使いこなせない。ちょっとやさつこのことですぐ騒ぐ……。弱い
598: 犬ほどよく吠えるって言うだろ？ 虚勢を張らなきゃ自尊心を維持できないような奴じゃ、

599: ダメなんだ。あいつはここという時以外、魔力を解放しない。それが本当の強さだよ。——
600: 今度はレイアがシリアについていけ」
601: レイア「わたしが……？ でも、わたしに……そんな資格は……」
602: パッシュ「——あいつの側にいてやれるのは、もう、レイアしかいないんだ。あたしは……」